



クローズアップ現代+ “リサイクル破綻”どう解決? ～脱プラスチック社会への模索～

放送日:2018年11月1日 放送時間:25分

対象校種 小学校 中学校 高校

対象教科 社会 総合

この番組の良さ

● 最新のプラスチックごみ対策を知る

海洋での新たな環境問題が浮かび上がってきました。プラスチック製品が海洋生物の体内に入り死んでしまう、マイクロプラスチックの人体への影響が懸念されるなど、便利で恩恵を受けていると思っただけがマイナスの面をもっていたことに気付かされます。対策として国や外食産業、個人レベルの具体的な取り組みが始まっています。環境問題を身近なことと捉え、何に取り組んでゆけるのかを考えさせる番組になっています。

● リサイクル促進への取り組み

2050年には海のプラスチックごみは全ての魚の重さを超えるという予測があります。今まで日本は、プラスチックごみの処理を中国に頼っていました。しかしこの道が断たれてしまい、プラスチックごみを国内で減らしていかなければならなくなりました。番組後半では、リサイクルや処分の現状や課題について知ることができます。

番組活用のポイント

● 「プラスチックごみを減らす」というゴールに向かうには?

最近、ニュースなどでプラスチックごみによる海洋汚染の現状を目にすることが多くなっています。当たり前のことですが、プラスチック製品は使用するとごみになっていきます。ごみとなってからのプラスチックの流過程を考えると、「プラスチックごみを減らす」というゴール(目標)を見出すことにつながります。

番組を視聴することで、プラスチックごみを生まない努力、リサイクル、処分の取り組みを理解し、さまざまな対策を考えることができます。

個人で考えた対策をグループで共有したり比較検討したりすることで、より具体的な取り組みに行き着くような授業展開が望まれます。個人・家庭レベルや自治体レベルでの取り組みなど、番組に出てきたことを実践するだけでなく、周りに発信できるような活動に結びつくと、子供たちの達成感につながります。

● 持続可能な開発目標SDGsの観点から

SDGsとは「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016~30年までの国際目標で、2015年9月の国連サミットで採択されました。17のゴールを定めており、その目標14は【海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する】です。

海洋の環境保全のためには、プラスチックごみ削減の持続可能な取り組みを授業で考えることが大切です。

一過性に終わらないよう、取り組みに際して起こりうる障害を予測したり、その障害を乗り越える対応策・改善策を考えて共有したりする機会を、学習の中で子供たちに与えることが望まれます。総合的な学習の時間で、環境教育をテーマにした探究的な活動として扱うとよいでしょう。




執筆者
宮古島市教育委員会
教育研究所
指導主事 座間味浩二

プラスチックごみを減らすには どうしたらよいだろうか？

対象校種 中学校 対象教科 総合

【授業時間 50分】 まるごと視聴

児童生徒の思考と活動の流れ	教師の支援と評価
<pre> graph TD A1(海水浴) --- A2(ビーチ) A3(バーベキュー) --- A2 A4(人混み) --- A2 A5(きれい) --- A2 A2 --- B1(レジ袋が漂っている) A2 --- B2(ストローが浮いている) A2 --- B3(ペットボトルが浮いている) A2 --- B4(外国からのごみが流れ着いていた) B1 --- C1(海の生物が食べてしまい死んでしまう) B2 --- C2(細かくなって浜に流れ着いてしまう) B3 --- C2 B4 --- C3(自分たちに害はないのだろうか) C1 --- D(プラスチックゴミばかりだ。このままではいけない。) D --- E(プラスチックごみはどうすれば減らすことができるのだろうか？) E --- F1(Recycle 再利用) E --- F2(Reuse 再利用) E --- F3(Reduce 排出抑制) E --- F4(Refuse 発生回避) F1 --- G1(永遠にリサイクルできる？) F2 --- G2(何回も使うのって汚い) F3 --- G3(ストローとかレジ袋は？) F4 --- G4(プラスチック製品だらけ) G1 --- H(減らすには限界・無理があるのだろうか？ どういった難しさがあるのだろうか？) G2 --- H G3 --- H G4 --- H H --- I(番組まるごと視聴 25分) I --- J1(リサイクル) I --- J2(ごみを出さない) I --- J3(処分) J1 --- K1(・リサイクル意欲向上のためにポイント還元する) J1 --- K2(・ペットボトルからペットボトルへリサイクルする) J2 --- K3(・ストローを使わない) J2 --- K4(・マイバックを使用する) J3 --- K5(・依存していた中国の受け入れ拒否) J3 --- K6(・処分場の少なさ) J3 --- K7(・処分コストを上げる) K1 --- L(できる取り組みを積極的に考えていくことが必要だ) K2 --- L K3 --- L K4 --- L K5 --- L K6 --- L K7 --- L L --- M(自分たちでできることは積極的に取り組み、できないことは自治体・国・企業などと連携して継続可能な取り組みを考えることが必要である) M --- N(自分の考えをノートにまとめる) </pre>	<ul style="list-style-type: none"> 海に行った経験や海のイメージを聞く。 番組内にあるプラスチックゴミの写真を見せ、気づいたことを聞く。 <p>2分5秒の画像</p>  <ul style="list-style-type: none"> これを見てみんなはどう思うかを聞く。 ごみを減らす方法を自分で取り組んでいることと地域でやっていることを聞き、取り組みを整理する。 プラスチックごみを減らす手段を4Rで整理し、発表する場面を設定する。考えに意見がある場合についても発表できるようにする。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】 実社会や実生活の中から問いを見出し、主体的・協働的（協同的）に課題の解決に取り組み、学習したことを自己の生き方に生かし、積極的に次の課題に取り組もうとしている。</p>